

# 『旅の記録』 by 秋口守國

## 4.2 九州・沖縄の旅 秋口守國記 2022.3.5

2月17日から24日まで福岡、熊本、鹿児島、沖縄を訪問してきました。今回の狙いは、第1に訪問地域でのまちづくりについて、後輩や仲間達との意見交換・懇談、第2に鹿児島から那覇へ海路の旅、第3にゆとりの時間を作り1人で気ままに街を歩く ことにしました。

### 1. 街づくりについて

・福岡市・西野、福岡県・松村、地整局・若山さんたちと会いました。福岡市はビッグバンを標榜し、都心の再開発は大名小学校の跡地に大規模ビルが立ち上がりつつあり、更に周辺にあたる天神の各地区で板囲いした再開発事業が幾つもあり、加えて九大の箱崎跡地なども動き始めており、失礼な表現かもしれませんがミニ東京都心部を思わせます。札幌広福の4大地方拠点の中では群を抜いた元気の良さの現れでしょうか。福岡市はさらなる開発の要望が続出のようでもあり、行政としてこれらの候補がどんどん動き出すと、果たして需給バランスがどうなるか気にかかるようでもありそうです。

また、県都市計画課は都市計画決定権限などが多く自治体に移され、都市計画審議会は年に1度程度のように、私が課長を務めた時代と大きな様変わりです。県としては都市計画の大きな枠組みを維持し、開発方針などのガイドラインづくりや、中小の市町村指導に力を注いでいるとのことでした。

局ではコロナ禍で自治体の意思疎通に難儀しながらも、オンライン・リモートでコミュニケーションを取っています。若い彼らですから新技術を駆使して業務を進めてくれることでしょう。熊本の災害復興相談に乗り、都市交通のセミナー準備を姫路のノウハウを受けながら、熊本市の能勢さんらと連携を取って進めているとのことでした。

UR山下さんとは九大箱崎の開発で文科省、福岡市など関係者間での調整が易しくないようで、夫々の考えもあり一筋縄ではいかないなとつぶやいていました。なお、新規案件としてJR古賀駅周辺の開発の立ち上げに向けて、今、力を注いでいるようです。

・熊本では、熊本駅前がJR九州の駅舎、ビル群が広場を取り囲むように立ち上がり、かつての侘しさは一掃され、きれいに広場や通路、これに合わせた市電駅の整備がなされて見違えるようです。今、コロナ禍で人の流れが少なく、ハードが目立っていますが、いずれ交流が活発になればそれにふさわしい場を提供してくれるでしょう。中心部の桜町再開発はテナントの入居も進み、NTTビルなどの周辺開発や辛島公園の再整備、都市緑化フェアの開催を念頭に街路のプロムナード化に努めていて、目の前の熊本城の雄姿を望み、新たな時代に向けて一皮むけつつあるように感じます。両角先生が2050グランドデザインで県市や経済界のトップに働きかけながら中心部の都市更新や、他方、若手の元気者達の知恵を集めソフト施策を駆使して、昔ながらの古町（駅と都心部の間）再整備をコツコツと進め、これにURの部隊が、今はボランティア的ですが具体的な貢献をしてくれています。派手さはありませんが期待したいと思います。熊本市・能勢（電話通話のみ）さんはスタッフを督励しながら、元気で頑張ってくれていることを報告します。

県庁の宮島局長と短時間でしたが、益城の震災復興や人吉の洪水復興支援の様子を聞きました。その前に益城の現地を2時間ほど歩いており、彼からは県道や区画整理についてやれるところは大きく進行し、いよいよ、最大の懸案である町中心部の交差点地区などをどう動かすか、作戦を練っているようです。こ

## 『旅の記録』 by 秋口守國

の春に熾烈な町長選挙があり、これに煩わされないように硬軟織り交ぜながら協議を進めていく予定とのこと。人吉水害復興に関しては分かりやすい構想図を示し、青井地区については既に具体的な説明に入っています。他方、ホテルなどのある中心部については地権者の独自の建て替えの動きもあり、市施工を念頭に置きつつ、権利者の要望を丁寧に聞きながら細部の設計にも工夫を凝らしたいとのことでした。宮島さんも、益城、人吉で復興事業に苦戦しながらも、陣頭指揮、前向きに取り組んでくれています。

・**沖縄**では、コロナ禍の中、日程などを調整していただき、多くの仲間とお会いし、意見交換などが出来ました。中南部都市計画区域の見直し作業で県・下地さんは担当を離れましたが、懸案になっていた中城村開発構想問題について、しまたて協会の協力支援を得ながら具体的な計画事業の組み立てや村の体制強化に向けて1歩前進です。沖縄バスタは今、交通計画が中心となっており、いずれバスタの諸元が示されるにつれ、具体の街づくり論とのかかわりが出てきます。また、那覇市旭橋の新たな開発については、建物構想、インフラ部など関係者間での議論の深まりを期待したいと思います

**中南部都市計画区域の見直し**は、大きな流れは固まりましたが、まだ最終化には至っていません。懸案だった中城村の街づくり構想の作成には、しまたて協会友寄さんや高嶺さんが汗をかいてくれ、村長もこれを了としました。次の段階として、その実現に向けた方策検討について村独自で調査費をねん出して動き出したのですが、村の職員には、この作業はいささか荷が重いようで動きが鈍いようで、かつてアワセの開発に尽力してくれ隣村の中城村勤務経験のある石渡さんに、行政の立場を踏まえて、コンサルと中城村役場の橋渡し役をしてくれるよう頼み、やろうと約束してくれました。

**沖縄市のバスタ**について、道路新産業機構の菊池さん〈元総合事務局次長〉が、次長時代に胡屋からゴザに向けた国道拡幅事業を採択し、特に胡屋交差点部分での拡幅とまちづくりの連携を精力的に進めていました。今回、地元で委員会〈委員長は池田教授〉を設置して、ローカル・バスタの事例として、交通計画的な観点をもとに、街づくりを意識し総合的な検討を進めています。これまで、胡屋交差点地区では、地元も池田先生を中心に熱心にまちづくり構想づくりに汗をかいてきましたが、残念ながら、いざ具体の計画・事業案の議論になると、事業の妥当性が不透明で、市からの支援が必要として腰が引けていた節がありました。このような中で、道路拡幅地区内で胡屋が良いのか、区間内のどこに設置するか、現次長は果たして窮屈な胡屋がふさわしいのか、コザまでの間でより良い場所が無いのかどうかと考えています。参加の地元委員は各市内組織代表の感じであり、また、交通計画の専門的なことには理解が届かないようで、現地に即した具体像を示さないと意見は出ず、今は大人しく概括的なコメントになっています。時間的な制約もあり、交通計画としてのシナリオづくりを先ず優先し、地権者の意識、要望を反映した実質的な話は、次年度以降にならざるを得ないのではないかと感じています。

**那覇市旭橋**については、完成したバスターミナル事業の隣接地区で、空港から市中心部に入る時の顔になりうるところです。今週、関係者間で国道タッチや河川改修など、基本的なインフラ条件について意見交換されるようなので、その結果に委ねようと思います。そして、これらを踏まえた建物計画につながっていくと思います。今回、現地を歩きましたが、開発地からの国道への左折入り・出については交通量などを勘案しながらも可能性ありでしょうが、右折は交差点との近接性や道路交通量から難しいとの印象を持ちました。

## 2. 鹿児島から那覇への船旅

・これまで沖縄・那覇へは、100回を超える訪問でしたが、時間距離を考え、いつも空路でした。ただ、

## 『旅の記録』 by 秋口守國

北大時代、私の下宿に、先輩で**沖縄からの国費留学生**がおられました。私たち悪ゴロは、それなりには勉強しましたが、麻雀始め遊びも大切とばかりに、あれこれ多くの時間を割いていました。そして、冬と夏は、自らの故郷に帰ることが出来たように思います。ところが先輩は、いつも物静かで真面目に机に向かっており、我々の騒ぎには距離を置いて淡々と眺めているだけでした。ある時、今年の冬は故郷に帰らないのですかと尋ねたところ、往復で1週間はかかってしまうし金もかかる、卒業までは我慢すべきで、帰るより北海道をじっくり見て回った方が良いとのことでした。

私は東京が故郷であり、**当時は汽車の旅**、東京から札幌まで、特急で20時間、急行では24時間、途中で4時間半の青函連絡船の乗り換えがあり、ずいぶん遠いなどの感じを持っていました。でも先輩の場合、札幌から東京へ1日、東京から鹿児島へ1日、鹿児島から沖縄・那覇に1日と交通だけで丸3日かかりました。札幌から大阪経由だと若干短縮できますし、東京から船で沖縄に向かうと、丸2日以上で余計にかかりますが、疲れ方は少し違うのかもしれない。

今なら、誰でも**飛行機利用**でしょうが、当時、我が友人が就職試験の面接を東京で行うとのこと、彼の場合、会社が飛行機代を負担してくれたそうですが、後で調べて往復の料金は、彼の初任給1か月分に相当したようです。しばらく後〈大学院の時代〉に、スカイメートの仕組みが導入され、空席待ちですが半額で乗れることは大きな魅力でした。最近、我が娘たちが、バス旅で5、6時間もかかり疲れて大変だとの声に、思わず、「何を言っとる、甘えるな」とどなりがちでした。

・前段が長くなりましたが、そのようなことが頭に残っていて、東京―鹿児島はかつて寝台車での旅をした経験がありましたが、**鹿児島から沖縄への船旅**はぜひ実行しようと乗船の機会を探していました。今回、水曜日の公安委員会が休日で休みとなり、日程に余裕が出来て可能になりました。時刻表を見て、鹿児島発18時、途中、奄美大島・名瀬港、徳之島・亀徳港、沖永良部島・和泊港、与論島・与論港、沖縄・本部港を経て那覇港に19時到着の予定です。船の予約をと会社に電話したところ、日時、名前を告げて予約番号をもらうだけ、その時点での支払いはありませんでした。料金は燃料加算がされて1.6万円余、東京から沖縄までLCCに乗ったならば7000円程度でこの方がずっと安いことになります。

**鹿児島**で、亡妻をかわいがってくれた高齢の叔母たちと会い、甲突川沿いをインドネシア時代の仲間と薩摩の偉人たちの旧蹟をのんびりジオラマなども見ながら歩きました。**乗船当日**は前線の影響で、残念ながら途中大島のみ寄港に変更され、多くの港や荷役作業を見ることが出来ずに残念なり。鹿児島港で那覇到着予定時刻は15時と書き出されましたが、いざ出港後は、風浪が高く16時20分、そして16時50分に状況に応じて変更されました。予約時点で料金請求しなかったのは、寄港できない島に行く人には事前連絡をし、料金の払い戻し精算が不要とするためです。

・かつての青函連絡船やフィリピンでマニラからセブの船旅と比較したかったのですが、**2等船室**は絨毯の上に、各人毎の頭の位置が仕切られ、きれいなマットと枕、毛布が準備されていました。本来600人乗客可能なのですが、60人程度の乗船でスカスカ、周りに邪魔されず、ゆったり就寝できました。私は船酔いには強い方で、昼の時間帯はずっと展望室で海を眺めていました。ドジは船の左側に陸地が来るとばかり思っていたのに、実は沖縄本島の東側を通過していて、“やんばる”を過ぎたあたりでこれに気が付き、右側に移動しました、おかげで本島の南部をゆっくり鑑賞出来ました。

**奄美大島港での荷役作業**を見入りました。狭い3階建ての船内駐車スペースの中車や運転台のみのトレーラーが荷物者を連結させて積み出し、積み込みし、更には荷役にあたったフォークリフトが10台程度機敏に、船内や埠頭を縦横に動き回っています。その統制された動きに感嘆の声を上げました、船が離

## 『旅の記録』 by 秋口守國

島の生活をしっかり支えていることを、荷役作業を見ながら実感、数年前の海外船旅で見た途上国に比べ、作業のシステム化、職員のきびきびした対応に、さすが日本の現場力は格段の違い、すごいな！

因みに、東京から志布志経由〈名古屋寄港のものもあります〉**沖縄への直接の船便**も週に3便あり、R O—R O型貨物船で客室も設けられているようで、時間に余裕のある年金生活者には、のんびりとした船旅も味わい深いと思います。

### 3. 沖縄歩きと地域振興での私の役割

・今回**沖縄**での2日間は1人で、**那覇、浦添、糸満、豊見城**の市内をバス移動、足任せで歩きました。

**糸満**の平和記念公園では平和の礎をはじめ、各県設置の慰霊塔や女高生を称えたひめゆりの塔に並ぶ男子生徒のための健児の塔、そして海辺まで足を延ばし、きれいな砂浜に、先の小笠原島近海の噴火による軽石が海岸線に沿いに筋になっており、思わずこれを拾いました、本当に軽い、そして多い、除去作業は大変です。

**浦添**ではヨードレや城壁などを雨の中、ゆっくり傘をしながら見て回り、沖縄県全体に広がる城跡をどの様に資源として磨き上げたらよいか、専門の人だけでなく一般の人にも興味を持ってもらうのには当時の生活様式などを盛り込みながら展示、解説、体験などが必要なのか考えていました。

**豊見城・与根**地区は、正に局開発建設部の支援の下、市役所勤務の伊芸君・大城君の頑張りで見事に立ち上がりつつあります。病院や流通施設がきちんと整備されつつあり、大成功例ですね。市の財政にも貢献していると思います。これに先立ち、県が主導した豊崎NT及び海岸線の公園整備の様子を見て回りました、M I C E選定の当時、当選したばかりの翁長知事はここではなく与那原を選択しました。何故、ここにM I C Eを豊見城に置かなかっただろうか、政治判断と言われています。担当者は与那原をベースに構想図を一生懸命書き上げてそれなりの評価を受けました。しかし、土地制約や関連施設、インフラ整備の状況などを踏まえると、計画面では明らかに選択ミスだったと私は感じています。西バイパスの橋を渡り与根へ、更にその後、瀬長島にも足を延ばしました。航空機を真下から見られるという売りで、コロナ禍とはいえ結構人出があり、海沿いの施設配置、店の中身もなかなかしゃれていて素敵な所でした。この2日間で30から40kmほど、元気に歩きまわりました。

・アドバイザーって何、やり過ぎかな？

**糸満**で、ランドアバウト（整備済み、中）及び、漁港前街路及び市場（イトモール）の施設を見ました。数年前、街路整備方針に伴い市場の整備について意見交換し、その整備レベルについて松竹梅のいずれを目指すのかで、市長の意向もあり地元はキラキラの松を強く要望し、地域振興アドバイザーの役として、私は梅だろうがせめて竹を目指そうと語りましたが、結果は梅の形で出来ていました。想定通りで張りましたが、少し悲しい気持ちになりました。沖縄の自治体の場合、トップの意向が議論では強く反映され、実務者幹部はそれに振り回されるのですね。私なりに、常に可能な限りのグレードアップを目指していましたが、各地で皆さんに無理がかかっているのだらうとも実感しました。

私も喜寿になり、ここ数年間、公安委員など新たな人生での役割も得て、元気さは衰えていないつもりです。他方、幾つかの事業で単なる絵や構想に留まらず、より良い形で実現を目指す「**地域振興アドバイザー**」役は、お節介の焼き過ぎ、皆さんに負担をかけ過ぎではないかと、自問自答しています。これからは、気合を入れ過ぎないように「ニコニコおじさん」、雑談しながら励ますのが、私の役目なのかなとも感じています。どうぞ、沖縄の皆さん忌憚のない意見をください、活躍を祈念しています。秋口拝